

第3号：アセスメント事業とは？

2025
No.3

Pickup! ニュースレター第3号発行にあたって

今年度は隔月での発行を予定しておりましたが、思うように進まず、発行の間隔がすっかりと空いてしまいました。行きつ戻りつを繰り返しながらではありますが、細くても継続していくことを大切にしていきたいと考えています。本号は、ニュースレター第3号となります。今回の特集は「アセスメント事業」についてです。

支援においてケースを見立てることは、一つの視点に限られるものではなく、さまざまな観点から行われるものかと思います。発達障害支援事業では、標準化された検査を活用しながら、本人の今後に役立つ情報を丁寧に整理し、支援につなげてきました。本人・家族・職場といった環境全体を視野に入れながら、どのように見立て、支援へと結びつけているのか。本号では、その一端をご紹介します。また、今回のコラムは、長年にわたりアセスメント事業を支えてくださっている職員に執筆をお願いしました。四コマ漫画は引き続き、事業職員の副編集長にご寄稿いただいています。ぜひご一読いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

Challenge! アセスメント事業について

就労支援分野におけるホットな話題の一つである「就労選択支援」が、2025年10月より施行され、サービスの運用が開始されています。「アセスメント」という文言が明文化され、大枠は示された一方、具体的内容については地域の支援者に委ねられています。2025年11月30日時点で公表されている情報によると、全国で588か所の事業所が、その担い手として認可されている状況にあるようです。本人のよりよい選択と意思決定の一助になれるよう、JSNとしても尽力できればと思うばかりです。

JSN発達障害支援事業では、就労移行支援で培っていたノウハウをもとに、標準化された検査を活用したアセスメントを継続的に実施してきました。ここでは、その代表的な取り組みをいくつかご紹介します。

一つ目は、成人向け知能検査であるWAIS-IVです。発達支援への関心の高まりを背景に、子どもを対象とした実施件数は大きく増加しています。一方で、成人期になってから困りごとが顕在化し、診断に至るケースは、今も決して少なくありません。JSNでは、そうした方々を中心に、主治医からの依頼を受けて検査を実施してきました。

単なる検査結果の提示にとどまらず、

- ・働く上でご本人が気をつけていけるとよいこと
- ・周囲からサポートを得られるとよいこと

といった、「働くこと」を見据えた視点を加えた所見を提供しています。

また、一般職業適性検査（GATB）も継続的に実施してきました。GATBは診断に直接関わるものではないため、幅広い方を対象に実施しやすい検査です。近年は「これから働くことを考える」段階にある大学生への実施とフィードバックを中心に活用してきました。

さらに、冒頭で触れた就労選択支援の場面であったり、リワークの復職のタイミングにおいても、GATBは積極的に活用しています。進路選択という節目のタイミングで実施することで、単なる適性の確認にとどまらず、今後の選択を考えるための自己理解を深める機会として機能することが、検査に求められている役割であると感じています。他にも、法人内では、検査実施者に該当する有資格者による定期的な会議、就労移行支援利用者への健康度やストレス対処の傾向など、多くの活動を行っています。検査結果は、その人の可能性を狭めるためのものではなく、「どのような環境や支援があれば力を発揮しやすいのか」を考えるための材料として支援に活かされることを念頭におき、検査結果が一人歩きすることなく、支援の文脈で適切に共有・活用されることを重視しています。今後も、事業の中でさまざまな場面において、本人を中心に据えたアセスメントのあり方を追求していきたいと考えています。

アセスメント事業のまとめ

- ・医療機関との連携、WAIS-IVの実施
- ・大学との連携、GATBの実施
- ・就労選択支援、リワークへの応用

Closeup! 4コマ漫画



編集者のコメント

WAISやGATBといった標準化された検査は、本人を理解するための多くの手がかりを与えてくれる一方で、実施にあたっては一定の時間や負担を要する側面もあるかと思います。また、数値という形で示された検査結果については、本来その人が持っている豊かさ・多様さを十分に伝えきれなくなってしまうおそれもあるように感じています。検査の利点を存分に活かしながら、実施した検査を通して、本人を支える周囲の人に知ってもらえるように。そして何よりも、本人自身の自己理解を深める一助になるようことに、引き続き努めていければと思います。

連載コラム！～事業への思い～②

心理検査、特にWAIS等のアセスメントは、単に数値を評価するものではなく、ご本人の歩みを俯瞰的に理解し、共に未来を展望するための「視点」を育むツールです。検査結果は、いわばその方の認知特性という「骨格」を示唆します。しかし本当に大切なのは、その骨格の上で本人がこれまでの経験を通じ、いかに懸命に「適応という肉付け」を施し、現在の「ボディバランス（日々の振る舞い）」を保つてきたかを立体的に捉えることです。アセスメントの真の目的は、この「骨格と適応努力」の調和を丁寧に見つめ直すことにあります。数値の凹凸の背景にある人知れぬ消耗を可視化することで、本人が「どの努力を続け、どの重荷を降ろすか」を自ら選び取るための選択肢を提示します。これまでの積み重ねを尊重し、本人が自らの在り方を再定義する。アセスメントは、その人らしい生き方への道筋を共に見つけるための対話の材料です。

アセスメントは
「その人らしい未来」に向けた対話の材料

JSN門真事業所職員

編集部のあとがき

編集長

今回コラムにはアセスメント事業に長く関わってきた職員に執筆いただきました。感性と思いの溢れた文章をご覧ください。

副編集長

今年も無事終わりました。これからも私たちの活躍をご期待ください！
よいお年を！！

編集者

次年度もぼちぼち、ゆったりといこうと思います。

次号特集は「教育機関連携事業」と今後の展望を見据えた内容を予定しています。

ニュースレターに関するご意見募集！！

ニュースレターの感想、事業に関するご質問等、些細なことでもお待ちしております。どうぞよろしくをお願いします。

<https://forms.gle/8AKQ7fLXVeT3t6mJ6>



事業ホームページはこちらから

<https://www.jsn-ddsd.net/index.php>

